

令和7年度 第1回 自転車の活用推進に向けた有識者会議

海外における自転車計画のレビュー



各国のビジョンの概要

【参考】各国のビジョンの概要



（ドイツのビジョン）

キャッチフレーズ、解説文、指標設定の3つで構成

フ
ィ
ャ
ッ
チ
フ
レ
ー
ズ

More, better and safer cycling

（より多くの、より質の高い、より安全な自転車利用を）

解
説
文

『移動は全ての人にとっての基本的なニーズである。自転車は、サステナブルで日常・非日常への適応力があり 時間の融通が利き、経済的で、また健康にも良い。2030年には、自転車は当たり前で、かつ多様なものになるだろう。人々は自転車を楽しみ、安心して乗れるようになるだろう。（以下略）』

指
標
設
定

- More ➡ 2030年に自転車の総移動距離を倍増させる（2017年比）
（自転車の魅力が高まることで）
- Better ➡ 2030年に自転車利用意向がある人を60%にする（2019年：41%）
- Safer ➡ 2030年に自転車事故死者数を40%減にする（2019年比）（最終的にはビジョンゼロ（事故死者数を0人にする）を掲げている）

（フランスのビジョン）

キャッチフレーズのみ設定し、対応する目標を設定

フ
ィ
ャ
ッ
チ
フ
レ
ー
ズ

自転車とウォーキングをすべてのフランス人の日常生活の一部にする

目
標
設
定

- ①自転車を、幼少期から生涯にわたって、すべての人が利用できるようにする
- ②自転車と徒歩を、近距離では自家用車に代わる魅力的な交通手段とし、長距離では公共交通と組み合わせる
- ③自転車を、我が国の経済をけん引する手段とする

（ハンガリーのビジョン）

キャッチフレーズ、解説文、指標設定の3つで構成

フ
ィ
ャ
ッ
チ
フ
レ
ー
ズ

2030年には自転車は速くて安全、アクセスしやすく経済的になるため、日常の移動手段として魅力的な代替手段となり、最も人気のあるレジャー手段にもなる

解
説
文

『2030年までに、住民の35%が自転車を主要な交通手段として週に複数回利用するようになるでしょう。都市間には独立した自転車道が整備され、都市内には自転車の基盤整備や速度を抑制するゾーンの設置等により、全国で自転車ネットワークが安全かつ魅力的になります。その結果、都市部では自転車利用が増加し、農村地域では現状の高い利用水準が維持されます。（以下略）』

指
標
設
定

- 住民の35%が自転車を週に数回利用
- 自転車でツーリズムをする人の割合が増加（2022年比）
- 自転車関連事故を50%減

（スペインのビジョン）

フレーズなし、文章で具体的に解説

『あらゆる領域での自転車の利用促進によって、社会により良い未来をもたらすことを見据えて、以下のような抱負があります。』

- ・自動車などによる移動に代わって、自転車の分担率を増加させることを目指します。
- ・自転車の安全性を強化し、自動車交通量を減らし、自転車利用を促進することで、交通事故を減らします。

（～中略～）

総じて、自転車は低炭素社会の実現に貢献し、エネルギー消費や排出量を減らすとともに、都市部の混雑緩和による生産性向上を実現します。さらに自転車は、雇用を創出し、都市・郊外部にわたってバランスの取れた経済を実現します。』

（オーストリアのビジョン）

フレーズなし、文章で具体的に解説

『2040年には、移動のあり方は大きく変化しているでしょう。人々は徒歩、自転車、公共交通、シェアリングサービスを組み合わせて移動しています。相互の連携と統合された予約プラットフォームにより、包括的で健康的な移動を保証します。都市部においてe-bike（電動アシスト自転車）は様々な形態で移動の中心的な役割を果たし、自動車を所有する必要性はほとんど無くなるでしょう。』

変化するのはモビリティだけではなく。都市の至るところに再生可能エネルギー設備が設置され、地方部では風力発電のそばを高速自転車道が走る景色がみられるでしょう。（～中略～）再生可能エネルギーは貴重な資源であり、モビリティから産業に至るまで、あらゆる分野に電力を供給します。（以下略）』

（オランダのビジョン）

フレーズなし、文章で具体的に解説し、文中に指標を記載

『2040年において、都市と地域を相互につなぐネットワークが機能し、迅速・安全・持続可能で快適なモビリティシステムに支えられているでしょう。自転車はそのモビリティシステムにおいて、徒歩・公共交通・自動車と並ぶ重要な交通手段であり、これらの交通手段との組み合わせでも利用されます。（～中略～）』

都市の中心部や郊外にモビリティハブが整備され、地方部では自動車に加えて、電動アシスト自転車が通勤・通学、その他の施設へのアクセスにおいて重要な役割を担っています。

このようなモビリティシステムは、アクティブモビリティ（自転車と徒歩）や公共交通機関の利用を促進します。その結果、オランダでは2017年と比較して、**2027年には自転車での走行距離が20%増加し、2040年には最大で40%増加**するでしょう。